

◆ ケアマネジャーのための情報誌 ◆

2018.2.1 発行

発行

一般社団法人  
札幌市介護支援専門員連絡協議会

事務局

〒001-0010  
札幌市北区北10条西4丁目1  
SCビル2F

TEL 011-792-1811  
FAX 011-792-5140

第110号

# ケアマネ SAPPORO

- P1~2. 「ケアマネジメントの周辺～まるごとの支援を考える～」第17回研究大会大会長 奥田 龍人
- P3. 札幌市からのお知らせ「札幌市認知症カフェフォーラム」
- P4~7. のみこみ安心ネット・札幌「食支援・摂食嚥下のサポート」札幌溪仁会札幌リハビリテーション病院/医師・副院長 橋本 茂樹
- P8. 知っ得(特別授業)「ケアマネジャーのためのメンタルヘルス実践講座」札幌市精神保健福祉センター所長 鎌田 隼輔
- P9. KPC24 きらり★ポジティブケアマネジャー [ケアマネ奮闘記①～ 居宅「介護のかけ込み寺」月寒 白川 郁子]  
[ケアマネ奮闘記②～ 特養アビターレアネックス 加賀 直子]
- P10. ～ケアマネ実践事例発表大会を終えて～



## ケアマネジメントの周辺～まるごとの支援を考える～

### 日本ケアマネジメント学会第17回研究大会in北海道へのお誘い

第17回研究大会大会長 奥田 龍人

(一般社団法人北海道ケアマネジメントサポートリンク)

なんと！この5月に日本ケアマネジメント学会第17回研究大会が北海道で開催される。北海道での開催は13年ぶりである。前回は、前沢政次先生（現：ひまわり京極クリニック院長）を大会長に、ケアマネジメントに欠かせない地域とのつながりを考える大会とした。その後、厚生労働省により「地域包括ケア」の概念が示されたわけであるが、前回大会はまさにそれを先取りして、ケアマネジメントの方向性を示した大会といえよう。

今回の大会も、これからのケアマネジメントの方向性を打ち出したいと考え、テーマを「北の大地から～地域丸ごとケアマネジメントの挑戦」とした。もちろん「我が事丸ごと」に象徴される地域共生社会のあり方を意識しているテーマではあるが、介護現場におけるケアマネジメントが定着する中で、実際に現場のケ

アマネジャーが介護支援のみならず様々な課題に直面している実態を直視し、改めて家族支援、地域による支援を考えようとしてのテーマである。

私自身、2年前に法人を立ち上げて居宅介護支援事業所を開設し、7年ぶりに現役のケアマネジャーとして働いており、また、障がい者相談支援事業所も併せて開設し、障がいから介護まで一貫した相談体制を敷いているが、障がいと介護にまたがる相談も多い。

そこで見えてきた風景は、以前よりさらに家族支援が必要なケースの多さである。いわゆる8050問題（この言葉は安易なラベリングのようで嫌いなのであるが仕方なく使用）ちなみに現場では7040問題～団塊の世代の親と同居の子供～も増えている）などに象徴される家族関係の問題がかなり増えてきている。とりわけ目立つのが経済的虐待ともいえるような事例である。

この要因は複合的なものであろうが、現場の実感としては、この社会の生きづらさ・不安があるように思われる。非正規雇用の増大に加え、やり直しがきかない社会構造、遅々として進まない障がい者雇用、制度の狭間に置かれた引きこもりへの支援など、おおむね雇用あるいは家族全体の収入にまつわる課題が多い。

そのような方々の生活の支援をデザインするのがケアマネジャー（あるいは連携した相談支援事業者）ではあるのだが、より包括的な相談支援体制が必要だと思ふ。地域包括ケアはマクロ面では様々な議論がなされており体制整備も進んできているが、ミクロ面での実効性に乏しいのが課題である。たとえば、地域ケア会議が法的に整備され、生活支援コーディネーターが位置づけられたが、あくまで介護保険法の地域支援事業という枠内の仕組みであり、生きづらい人々のニーズに包括的に答えているかということ、道半ばであろう。

そこで期待されるのが「我が事・丸ごと」地域共生社会の検討であるが、今の縦割り福祉をどの程度変革していけるのか、その実効性に期待したいところである。

そして、どのような仕組みが提示されようとも、実際には地域住民と専門職の共同が具体的に実効性のある取組としてなされねばならず、その面でケアマネジャーの役割は大きい。自らの利用者への具体的な社会資源の開発、地域社会との連携をいつも模索する姿勢が、少しずつ社会を変えていくと捉えたい。サービス調整のみでも苦勞しているケアマネジャーとしては周辺の仕事であるかもしれないが、この周辺意識を強くもってほしいと思う。

そのような意図を持って、1月7日・8日に、学会研究大会のプレ大会を行い、「地域力強化検討会」の座長の原田正樹先生を迎え、我が事丸ごとの意義と目指す社会づくりを学び、また、北海道の様々な地域での実践を発表する場をもった。人口減社会の中で地域をどう支えていくか、という重い課題に真摯に向き合うシンポジス

トの皆さんの発表を聞いて、改めて、地域の元気力と創意工夫に多くのことを学んだ。とりわけ、原田先生の「これからの社会は「interdependent」（支える人も支えられる人も等価な社会）」という言葉に、ケアマネジメントの未来があるのではないかと感じている。私たちは、他人を支援する業務（介護支援）なのであろうが、実は、その方々から支援されていると、いつも感じている。介護を必要とする方が、私たちが後押ししているのである。

さて、日本ケアマネジメント学会第17回研究大会は、5月19日・20日に北星学園大学を会場に開催される。「地域丸ごとケアマネジメント」という概念をどうとらえ、どう実践するのか、「北の大地から」の発信ができればよいと思う。

大会の運営にあたっては、札幌市介護支援専門員連絡協議会の役員の皆様にも多大なご協力をいただいております。厚く御礼申し上げます。また、会員の皆さまのご参加をお待ちしております。（事前登録は大会ホームページで受け付けています）。

## 日本ケアマネジメント学会 第17回研究大会 in 北海道 北の大地から、 地域まるごとケアマネジメントへの挑戦



開催日:2018年5月19日(土)・20日(日)  
 会場:北星学園大学(札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1)  
 大会長:奥田 龍人 (一般社団法人 北海道ケアマネジメントサポートリンク 認定非営利活動法人 シーズネット)

5月19日(土)  
 ●大会共済講座「地域まるごとケアマネジメント」  
 ●基調講演1「介護保険制度改正・報酬改定の動向」  
 早生 芳樹 氏(予定)  
 ●シンポジウム1「制度改正で「生活」はどう変わるか?」  
 介護福祉法同僚/障害者総合支援法同僚/介護福祉関係者/介護支援専門員  
 ●特別講演  
 前大 宏 氏(一般社団法人 北海道ケアマネジメントサポートリンク 認定非営利活動法人 シーズネット)  
 ●懇話会  
 共催:公益財団法人在宅医療推進 勇気記念財団  
 ◎市民公開講座1「地域まるごとケア～あるがまま～ないがまま～」  
 ◎市民公開講座2「地域まるごとケア～「わがまま」を育てる～」  
 ◎市民公開講座3「地域まるごとケア～「わがまま」を育てる～」  
 ◎市民公開講座4「地域まるごとケア～「わがまま」を育てる～」

5月20日(日)  
 ●基調講演2「地域共生社会の実現に向けて」  
 早生 芳樹 氏(予定)  
 ●シンポジウム2「地域まるごとケアマネジメントへの挑戦」  
 行政/社会福祉協議会/社会福祉法人/民間介護サービス事業者  
 ◎教育セッション「専門職におけるケアマネジメントの現状と課題」  
 障がい者/生活困窮者支援/司法・矯正/教育  
 ◎実践報告1「介護予防・日常生活支援総合事業」  
 ◎実践報告2「暮らしの場における看取り」

大会参加費  
 会 員 8,000 円  
 非会員 10,000 円  
 学 生 3,000 円

◆当日参加登録  
 会 員 10,000 円  
 非会員 12,000 円  
 学 生 5,000 円

◆懇話会参加費 8,000 円

◆事前参加登録方法  
 大会ホームページでご確認願います。  
<https://www.jkmt.co.jp/2018/17gcm/index.html>

5月18日(金)  
 ●認定ケアマネジャーの会  
 14:00 総会  
 15:00 全体研修会  
 「チーム北海道ケアマネジメントを担う」  
 ～事例を通して、障がい者・高齢者の  
 利用理解を深める～

●実行委員会事務局  
 北海道ケアマネジメントサポートリンク  
 〒007-0010 札幌市中央区北10条南4丁目5Cビル2F  
 E-mail: cm17hokkaido@gmail.com

●第17回研究大会in北海道運営事務局(事前参加登録等お問い合わせ先)  
 近畿日本ツーリスト北海道 北海道 DM 支店  
 〒060-0003 札幌市中央区北3条南2丁目2-1 日連札幌ビル6F  
 TEL: 011-250-8855 / FAX: 011-251-2283  
 E-mail: s-convention-1@er.knt.tco.jp

## 札幌市からのお知らせ

平成29年度

# 札幌市認知症カフェフォーラム

～認知症カフェからの発信～

認知症カフェの取組内容、立ち上げや運営の方法、認知症ボランティアの役割等について学びます。

日時

平成30年**2月13日(火)** 14:00～16:00 ※開場13:30～

場所

**札幌国際ビル 8階 国際ホール**

(札幌市中央区北4条西4丁目) ※さっぽろ駅8番出口横が札幌国際ビルの入口となります。  
※御来場の際は公共交通機関を御利用ください。

参加費

無料

定員

先着200名

行政説明 (14:05)

「札幌市認知症カフェ認証事業について」

札幌市保健福祉局 高齢保健福祉部 介護保険課

シンポジウム (14:15)

座長:札幌医科大学保健医療学部作業療法学第二講座 池田 望 教授

①「ほっこりカフェ」

報告者:社会福祉法人大友恵愛会 特別養護老人ホーム大友恵愛園

②「ほっとカフェみその」

報告者:有限会社ケアワークス デイサービスみその

③「ふらっとステーション伏古」

報告者:医療法人社団豊生会 地域包括ケア推進部

④「コミュニティカフェふうしゃ」

報告者:社会福祉法人宏友会 法人本部地域連携室



申込先・お問い合わせ先

札幌市コールセンター 電話 222-4894 (8:00～21:00 年中無休)

FAX 221-4894

※FAX用申込用紙はケアマネ連協ホームページに掲載しております。

WEB受付のページ <http://www.city.sapporo.jp/callcenter/uketsuke/index.html>

受付期間:平成30年1月30日(火)～平成30年2月6日(火)

主催:札幌市

～のみこみ安心ネット・札幌より～『食支援・摂食嚥下のサポート』

第6回 医療制度と食支援

のみこみ安心ネット・札幌 副代表 橋本 茂樹  
 (札幌溪仁会リハビリテーション病院/医師・副院長)



今回は最終回なので、医療制度から食支援を考えてみましょう。

少子高齢化の波は大きなうねりとなり、私たちの生活、特に医療制度に大きな圧力をかけています。現状の医療制度を維持するためには「医療費の抑制」⇒「病床の削減」「医療の効率化」は避けられません。その地域に即した地域包括ケアシステムなるものをつくり、各地域の努力で超高齢社会を乗り切りたまえ、すなわち30分以内に医療・ケアを受けることができ、自助・互助・共助・公助の推進で地域ぐるみで支え合う社会構造改革をおこなうことが必要であると地域に丸投げされたわけです。地域というブラックボックスにフレイルな高齢者を投げ込み最小限の経費で元気を維持させるということです。

「在宅医療の推進」+「自宅のベッドの病床化」=「在宅、時々病院」という勝手な医療費抑制計画が立てられました(図1)。しかしながら、この大波は私たちに待ったをかけさせてくれません。どんどん迫ってきています。「在宅、時々病院」をなすために医療と介護のシステムの中にいる私たちは何をしなければならぬのかが問われるわけです。

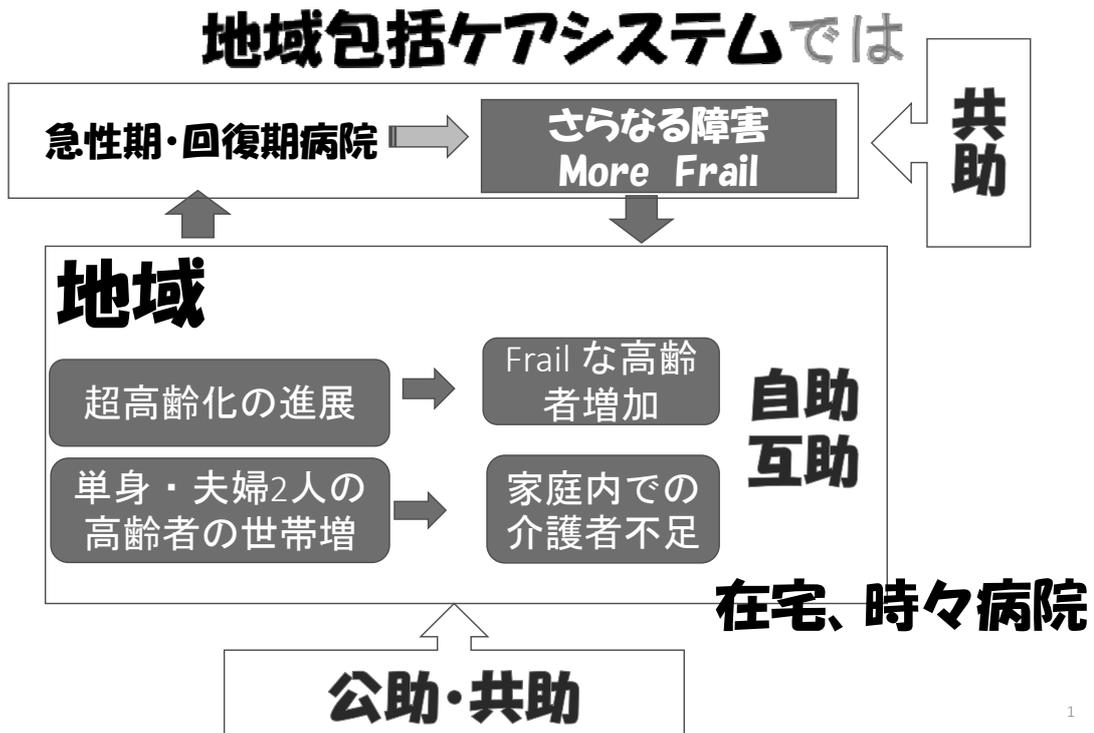


図1)

健康寿命を延ばすこと、障害や疾患を抱えていたとしても在宅で少しでも元気に暮らすには何が必要かです。大切な要素は2つ、活動と栄養です(図2)。地域に活動する機会と場があること、そして栄養が十分取れている事が重要となります。活動に関しては、各地域での介護予防への取り組みが国から指示され動き出しました。

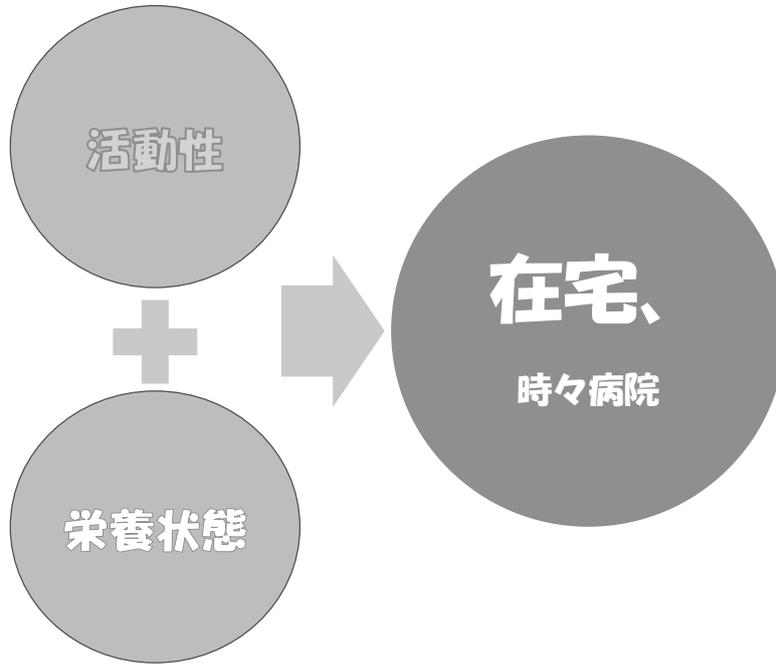


図2)

もう一つは栄養です。フレイルな高齢者は、これまでの5回の章の中で述べたように嚥下の問題が起きやすい状況になっております。フレイルサイクル(109号/連載第5回の図1))で理解してほしいのですが、嚥下に問題が出始めるとすぐサルコペニアになります。また、低栄養の状態では免疫力の低下や抵抗力の低下にて肺炎予備軍化しています。しかしながら、残念なことに今札幌には在宅で食をさせるシステムがないのです(図3)。

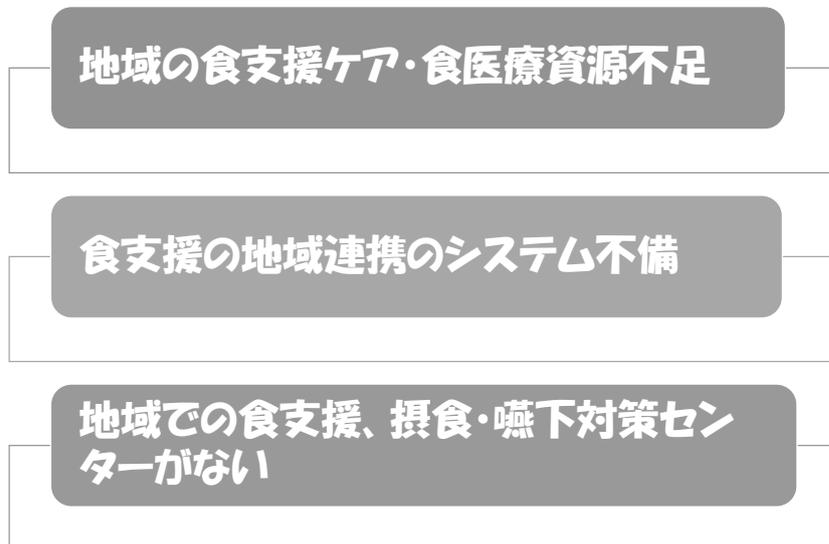


図3)

これでお分かりかと思いますが、「在宅、時々病院」をしっかり維持するためには、地域NST(栄養サポートチーム)とEST(食支援サポートチーム)等が必要となります(図4)。今後、地域でこの食と栄養をサポートする体制づくりが絶対必要です。病院の単独チームで動くのか、地域連合チームで動くのかはその地域地域で様相が異なると思いますが重要なことをご理解ください。

**中学校区レベル**

※ST：サポートチーム

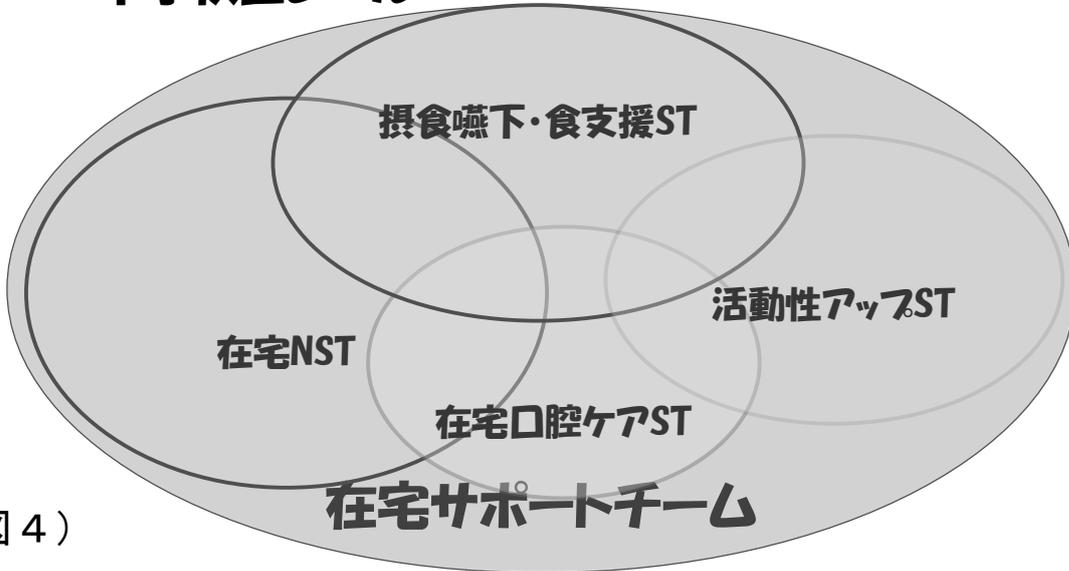
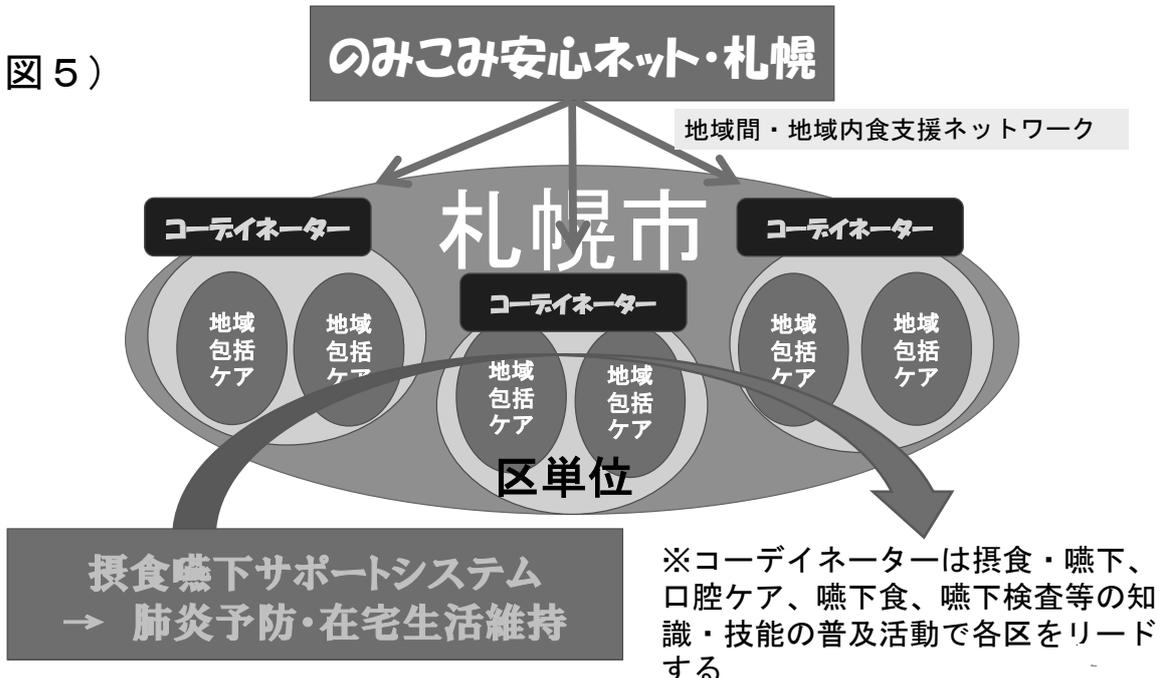


図4)

のみこみ安心ネット・札幌は地域で活動する食支援サポーターをコーディネーターとして養成してきました。いつの日か、私たちの研修会で学んだ方々が地域で食支援サポーターとして活動することを期待しております(図5)。

図5)



～のみこみ安心ネット・札幌より～『食支援・摂食嚥下のサポート』

また、私のいま所属している病院では地域への食支援介入活動として、現在行っている摂食嚥下専門外来の枠を広げ「そうえん食支援センター」として地域介入を進める準備が始まりました(図6)。

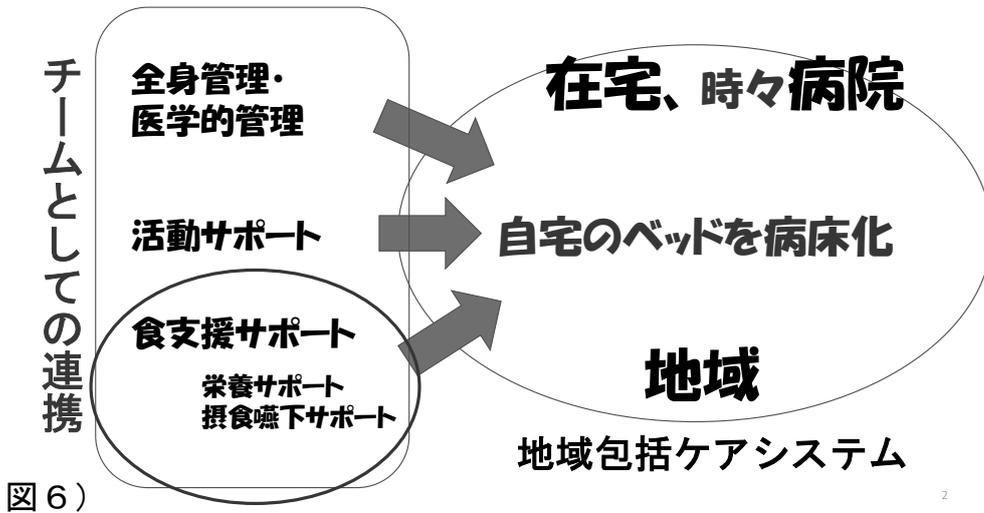


図6)

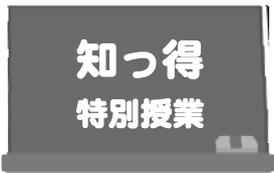
①摂食嚥下専門外来をベースに、食支援訪問チームを作り、②訪問栄養指導、③訪問嚥下評価、④嚥下調整食等の相談・指導、⑤桑園食支援地域ネットワークの構築を考えております。院内の医師・管理栄養士・歯科衛生士・ST・Ns等からなるチームです。⑤の地域ネットワーク活動では桑園地域の食関係現場でかかわっている介護サービス関連の方々への、またご家族への食支援関連での教育や普及活動を念頭に置いています。院内、院外、地域へと食支援活動を拡大していくことが大切だと考えております(図7)。

食支援／医療・介護関連肺炎対策は.....。

図7)



皆さんへのお願いですが「在宅、時々病院」を如何に少しでも長く維持できるか、ぜひ個々の利用者さんを念頭に置いて個々のケアプランだけでなく、地域づくりへのご協力をお願いして、最終回を閉めたいと思います。つたない文章や図につき合ってください有難うございました。また事務局で編集作業に携わっている谷さんには、毎度毎度の遅筆でご迷惑をお掛けしましたことをお詫びいたします。感謝です。

ケアマネのためのスキルアップ情報コーナー 

 知っ得  
特別授業

## 第1回

## 『ケアマネジャーのためのメンタルヘルス実践講座』

 札幌市保健福祉局 精神保健担当部長  
 精神保健福祉センター所長 鎌田 隼輔

札幌こころのセンターの鎌田です。今回からシリーズでこのコーナーを担当します。事例を通して、皆さんとメンタルヘルス支援について考えたいと思います。

【近隣とのトラブルが続く80代女性】年金で暮らす独居の女性。家族関係も疎遠で孤立している。「上階に住む人が、自分の寝る時間帯にびりびりさせる『臭い』で嫌がらせをする」と、地域包括支援センター、民生委員、警察等に頻回連絡してきて困っています。どう対応したら良いでしょうか？

支援者の多くは、ついつい「医学モデル」で解決策を考えようとしがちです。つまり、症状から、“診断”をつけ、適切な“治療”に結びつける、という考え方です。この事例に当てはめてみると、体感幻覚、幻臭、被害妄想（「びりびりさせる臭い。近隣住民による嫌がらせ」）の存在から、妄想性障害による幻覚妄想状態が考えられます。妄想があるから、すぐ精神病院に連れて行かなくてはと考えるのはどうでしょうか？ 精神科病院に連れて行っても、ただちに入院治療になるとは限りません。本人の意向に沿わない支援は、かえって本人を追い詰めてしまいます。それなりに日常生活ができていて、周囲への迷惑行為が著しくなければ、強制的な入院につなぐことはできません。ご本人自らが精神医療の助けを借りたいと思ってもらうことが大切です。そのためには、まず、信頼関係づくりが必要です。こちらの考えを聞いてもらう前に、相手の気持ちや要望にじっくり耳を傾けることが基本です。無理な要望も、「できない」と頭ごなしに否定するのではなく、できるだけ努力をするという姿勢が信頼関係の構築に役立ちます。「あなたの話は妄想だ、精神病だ」と決めつけて対応されるのが、本人にはもっとも辛いと思います。「あなたのような体験は、自分には想像できないくらい辛いことだと思う。辛い体験をよく話してくれた。自分はあなたの辛さをやわらげる力になりたい」と伝え、辛い気持ちを労い、相手のこれまでの生活に共感しようと努める姿勢が大切です。

この事例のような場合、幻覚や妄想をターゲットに薬物治療を行っても症状は簡単に消失しないことが多く、生活の基本（食事、睡眠、運動、他者との交流など）を整えていく中で、徐々に幻覚や妄想に伴う問題行動が減っていくように思います。幻覚妄想状態にある高齢者の場合、鉄分や亜鉛等のミネラル不足などの栄養の偏りから身体面のケアが必要な方も見られます。遠回りに見えますが、貧血、便秘、冷え症などの身体症状からアプローチすることも有効な手立てとなることがあります。生活支援の視点から、不安感をやわらげる工夫を始めてみてください。

**キーワード** 本人の尊厳を傷つけない。入院をゴールにしない。本人の望む安心できる暮らしに近づける。



## ケアマネ奮闘記 ①

鈴木内科居宅介護支援事業所 松尾 健児

当居宅は清田区にある鈴木内科医院に隣接した事業所です。法人内では訪問看護、訪問・通所リハビリテーション、グループホームとともに、清田区美しが丘にあるサービス付き高齢者向け住宅に併設して定期巡回訪問介護看護事業所があります。

私が当事業所にケアマネジャーとして勤務してから早5年の月日が経過しました。入職した当初は、ケアマネジャーとしての経験も浅く、清田区での勤務も初めてだった事もあり土地勘もわからず右往左往の日々でした。また、医療法人との事もあり、医療ニーズのある方を支援させていただく事も多く、介護保険に加えて医療保険の知識も必要となり、常に頭の中がパニックだったのを覚えています。

現在は管理者として勤務しており、自身の担当しているケースだけでなく、事業所全体の管理に四苦八苦しています。ただ幸運な事に入職当初より清田区のケアマネ連協の役員をさせていただいており、他事業所の諸先輩方にも相談できる機会がありました。また昨年清田区の居宅管理者会を立ち上げた事から、横のつながりが充実してきており、管理者ならではの悩みを相談し合える機会も増えています。

今年はトリプル改定も控えています。病院から在宅への流れも加速しつつあります。ケアマネジャーとして制度改正に適切に対応する事はもとより、地域の一事業所として他事業所のケアマネジャーと協力しながら、地域課題に取り組む事も必要と感じています。

## ケアマネ奮闘記 ②

介護老人保健施設げんきのでる里 佐々木 隆治

福祉職で働き15年、ほとんどが特養で就業し、様々な高齢者の方と関わってきました。ノテ福祉会に入職し約4年、介護付き有料老人ホームで働き、現在は介護老人保健施設にて介護職員兼ケアマネジャーとして約3年働いています。

今まで居宅系での仕事経験がなく、居宅サービスに関しての知識が少ない為、ご利用者が在宅復帰する際には居宅ケアマネさんに色々のご指導いただきながら日々勉強しています。在宅生活には、多様なサービスがあり、一人一人の疾患や症状に合ったサービスを選択できるという事と在宅復帰したご利用者を中心に地域の方々や様々な職種の方が連携し支えている事を多く実感しています。中間施設と呼ばれる老健として、ご利用者の正確な情報を伝えてスムーズに在宅・施設に移れるよう今後も精進していきます。

毎日介護業務を優先しケアマネ業務が後回しになることが多く、いつも時間に追われる日々……。慌ただしい日々の中でも、いつも笑っているご利用者や職員を見ていると自然と自分も笑っており、毎日皆さんから活力を頂いております。

介護職員を兼務しているとご利用者との距離がとても近く、身体的・精神的に様々な変化がリアルタイムで感じ取る事ができ、気持ちに直接寄り添いやすく、その人の状態や想いをケアプランに反映させやすい事が一つの利点だと思います。これからも「想い」がたくさん詰まったケアプランができるよう関わっていきたいと思います。

## ～平成29年度ケアマネ実践事例発表大会を終えて～

報告：札幌市介護支援専門員連絡協議会 副会長／研修委員長 乙坂 友広

1月13日に、本会としてははじめての実践事例発表会を開催しました。当日は、季節がら足元のわるい中、100名を超える会員の参加がありました。今回は、記念講演・シンポジウム・実践事例発表と、ほぼ1日のプログラムとなりました。

北海道厚生局の翁川様からは、厚生労働省から出されている少々難しい事項を、私でも理解できるように簡潔にご説明いただき、今回の制度改定の背景や根拠となる事柄等、ここでしかきけない貴重なお話しもたくさんいただきました。



午後のシンポジウムでは、最初に市内3区の先駆的な実践が発表され、本会の由井会長、北海道介護支援専門員協会の笠松副会長、日本ケアマネジメント学会北海道大会奥田大会長より、それぞれの立場から介護支援専門員のあり方等の発表がありました。

北海道介護支援専門員協会は、30年度より介護支援専門員実務研修受講試験から実務研修に至るまで、北海道より委託を受けて実施する団体となり、これまで以上に強化される事となります。



また、日本ケアマネジメント学会北海道大会は、本年5月19・20日に北星学園大学を会場に開催されます。全国の先進の取り組みにつながる大会が市内で開催されますので、たくさんの方にご参加いただけるようお願いいたします。

実践事例発表は、4題の発表があり、それぞれの発表をじっくりと聞く機会となりました。



札幌市介護支援専門員連絡協議会は、1500名弱の会員がいて、その多くは現在も実務として活動しているので、具体的な実践事例はたくさん有していると思います。

本会は、介護保険制度がはじまる前の年に、自主組織として設立されました。現在も変わらず基本方針として「市民の市民による市民のための介護文化の創造を目指し・・・」としています。

会員の皆さんの、ひとつひとつの素敵な実践を他の会員に伝える事により、一人でも多くの方の幸せにつながるものと考えています。それが、札幌市全域・北海道・日本全国に伝わるようにもなります。

来年度以降も、介護支援専門員の質の向上につながるような、充実した研修会を目指して企画して行きます。沢山の会員の方にご参加いただき、「こんな研修を希望したい等」のご意見を本会や各区の役員まで伝えていただけるとありがたいです。

### ケアマネSAPPORO110号 (2018年2月1日発行)

発行元：一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会

編集：一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会 広報委員会

広報委員長：長崎 亮一

広報委員：南 靖子 宮川 亮一 姉崎 重延 鈴木 晴美 伊藤 和哉

和田 賢太 飯田 裕一 藤川 宏子 佐賀 正人

E-mail：kouhou@sapporo-cmrenkyo.jp ホームページ：http://sapporo-cmrenkyo.jp/  
(札幌ケアマネで検索可)

